

現代集の世界



実施する作品

- ★教科書のこれらをチェックしておく！
- ★教科書1119の表を覚えてしまおう！
- ☆資料集で更にこれら五作品を調査だ！

古今和歌集

- わがやどの…… (よみ人知らず)
- むすぶ手の…… (紀貫之)
- うたた寝に…… (小野小町)

後撰和歌集

- 来や来やと…… (元良親王)
- 夕暮れは…… (藤原かつみ)

後拾遺和歌集

- 都をば…… (能因法師)
- もの思へば…… (和泉式部)

千載和歌集

- 花に染む…… (円位法師) ※西行

新古今和歌集

- 面影の…… (皇太后宮大夫俊成女)

古今和歌集

私の家の
わがやどの

庭の池のほとりの藤の花が

池の藤波

咲いたよ

完了・用 詠嘆・終

咲きにけり

藤の花房がなびく
≡
波が打ち寄せる

山ほととぎすは

山ほととぎす

いつ来て鳴くのだろうか

係助・疑問

推量・体

いつか来鳴かむ

「藤」・「ほととぎす」が表す季語は？

「わがやど」咲きにけり」の情景は？

下の句に「められた心情は？」

縁語と解釈できる場所は？「い」？「む」？

この歌、ある人の言はく、

断定・終

柿本人麻呂がなり。

格助詞 (連体)

この歌は、ある人の言「い」とは、

柿本人麻呂の作である。

古今和歌集

志賀の山越えの道で、石で囲んだ湧き水のほと
志賀の山越えにて、石井のもとに
リで言葉を交わした人が、別れた時に詠んだ
てももの言ひける人の別れける折に
マ四・已完了・体

詠める (歌)

水をすくう手からこぼれる
むすぶ手の

しづくで濁ってしまふ

格助・原因理由

しづくにににる

山の泉の水のように

格助・連体

山の井の

格助・比喻

十分に満足することなく

カ四・未

あか

格助・接助
打消

で

格助・強

も

人に

あなたと別れてしまふのだなあ

完了・体

別れ

ぬる

か

な

格助・詠嘆

序詞

なぜ「むすぶ手の」の井「で」は満足できなかつた？
この歌にある修辞は何か？
この歌全体を通じる心情は？

後撰和歌集

八代集の世界

補動丁ラ変用 作者↓下命者

あひ知りて侍りける人のもとに、

返り事見むとて遣はしける

親しくしておりました人のところへ、
(その人がどのような)返事をするか試
してみようと思つて贈った(歌)

来るか来るかと(思つて)

来や来やと

力変終 係助(疑問) ↓ ×

待つ夕暮れと

待つ夕暮れと

今は(お別れ)と

今はとて

帰る朝とでは

格助・並列

帰る朝と

どちらか(辛さが)勝っているだろうか

いづれまされり

ラ四・已

存続・終

「来や来やと待つ夕暮れ」と「今はとて帰る朝」
とは、それぞれどのような状況?

「いづれまされり」とは、何が勝っている?」

後撰和歌集

夕暮れは
夕暮れは

待つことばかり（心が）かかり、
（その身は）松にかかる

係助・強意
三四・体

松にもかかる

掛詞

- ・待つ
- ・松

白露のようで（今にも消えそうで）、
格助・主格

白露の

起きて（恋人を）送る朝には、

係助・疑問

おくる朝や

（その置いてきた白露のような我が身は）
消え果てしまっているだろうか

や下二末

係助
強調

消えは果つらむ

原因推量・体

この歌の掛詞について、それぞれどの語が、どの
ような掛詞になっているかを説明せよ。

① 夕暮れは松にもかかる白露の

② 白露のおくる朝

この歌は前の「来や来や」の返歌だが、結局「来
や来やと待つ夕暮れ」と「今はとて帰る朝」のどち
らが勝っていると返事している？

後拾遺和歌集

動丁ラ四用↓下命者

陸奥国にまかり下りけるに、白河

補動丁ラ変用↓下命者

の関にて詠み侍りける 能因法師

陸奥国に下向しました時に、白河の関で詠みました（歌）

都を 係助・強意
都を ば

霞とともに
霞が立つのとともに

過去・已↓逆接確定

立ち しかど
旅立ったけれども

秋風 係助・強意 ↓ 力四・体
秋風ぞ 吹く
秋風が吹いている。

白河の関
こゝ白河の関では。

都を出発したのはいつ？

季節の推移と都からの距離に関し、どのようないが込められている？

後拾遺和歌集

男に忘られて侍りけるころ、受身・用 補動丁ラ変用↓下命者 貴船

に参りて、御手洗川に蛍の飛び動謙ラ四用↓貴船

侍りけるを見て詠める補動丁ラ変用↓下命者 マ四・已完了・体 和泉式部

夫に忘れられておりました頃、貴船神社
に参詣して、御手洗川に蛍が飛んでおり
ましたのを見て詠んだ（歌）

もの思へばハ四・已↓順接確定
思い悩んでいると

沢の蛍も係助・類例
沢辺に飛ぶ蛍も

わが身より格助・起点
わが身から

あくがれ出づるダ下ー・体
さまよい出た

魂かぞ見る格助・引用
魂係助・疑問 係助・強意↓マ上ー・体
魂ではないかと思えるよ

何を「沢の蛍」に例えている？

「あくがれ出づる」の表現の背景にあるのは、古
代の日本人のどのような考え方が。

千載和歌集

花の歌あまた詠み侍りける時

補動丁ラ変用↓下命者

円位法師

花の歌をたくさん詠みました時（の歌）

花に染む
花に執着する

格助・主格
心のいかで
心がどうして

ラ四・用 過去の原因推量・終
残りけむ
残ったのだろうか

完了・用 過去・終
捨て果ててきくと
（世俗を）捨てきったと

格助・連体
思ふわが身が身に
思うわが身に

花に染む心とは、どのような心の心か？

「心」と対照的なものを歌内から一語で！

水無瀬恋十五首歌合に、春恋の心を
 を 皇太后宮大夫俊成女
 水無瀬恋十五首歌合で、春の恋の心を
 (詠った歌)

格助・主格
 面影の

(あの人の) 面影が

マ四・已 存続・体 係助・強意
 かすめる 月ぞ

ぼんやりと見える霞んだ月が

ラ四・用 詠嘆・体
 宿りける

宿っているよ

係助・疑問 ↓ (省略)

春や昔の

春は昔のままの春ではないのかと

格助・対象

袖の涙に

嘆いてこぼした袖の涙に

倒置法

掛詞

- 面影がかすむ
- かすんだ月

「かすめる」の掛詞は何と何を掛けている？

「春や昔の袖の涙」とはべつべつ心づいて表現している？伊勢物語「月やめらぬ」の歌を踏まえて説明せよ！